

# 景況感は弱含みで推移

## 2月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

大雪の影響を受けた昨年比では売上増だが、例年並みに止まる。一方、昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動減で大きな売上の落ち込みが散見される。また、今後も原材料の値上げが見込まれ一段と厳しさを増す気配である。

製造業	食料品		パン・菓子・製麺は原材料価格の上昇に加え、4月からの小麦価格の値上げを控え一層厳しさが増す状況である。酒造は消費増税前の駆け込み需要の反動減で売上は大きく落ち込む。
	繊維・同製品		婦人服地は端境期となり低調に推移している。輸出向けは2016年の春夏用のサンプリングづくりに尽力している。和装織物は求評会の出足が良く今後に期待を抱いている。一方、伊勢崎織物は県内外の販売会は低調である。繊維製品は、婦人服の売れ行きが悪く乱売状態である。
	窯業・土石製品		生コンは例年並みの出荷量である。コンクリートブロックは、住宅建設需要と消費意欲の落ち込みで横ばい状況が続く見通しである。コンクリート製品も好転せず前年並みに推移している。砕石は、販売価格は上昇傾向だが、売上高には地域差が見られる。
	機械・金属		全体的に好調ムードはあるが、依然、原材料高や熟練工不足が改善されず、コストダウン要請も大変厳しい状況で、一部では工場閉鎖も散見される。パナソニック大泉工場の生産増強を控え地域の関連企業は期待を寄せる。プラスチック金型は、2月に入り受注が減少し昨年並みの水準に止まる。
	その他の製造業		製材は、製品単価下落の上、荷動きも非常に悪い。印刷は、年度末の官公需受注が低迷する中、民間受注の競争も激化している。ゴム製品は、一般的に景況は良い傾向も、一部で大きく落ち込む等まだら模様の状況である。紙加工品は、県外業者との競争激化で軒並み販売量減少、販売価格も下落傾向である。
非製造業	卸売業		住宅向け建築関係の売上・収益悪化、一方、機械器具関連は増加している。農産物卸は、野菜・果実は昨年並みに推移している。水産物卸は、昨年大雪の影響による落ち込みと比較すると例年並みの売上を確保している。
	小売業		家電小売は、駆け込み需要の反動減で売上・収益ともに悪化している。中古車オークションは繁忙期で出品・成約・単価とも上昇している。ガソリン小売は、前年比17~18円/lの値下がりの中、給油所の減少傾向は止まらない。商店街は、人通りが少なく売上低迷が続く中、高崎市では空き店舗への入店の動きがみられる。生花店は、消費増税の影響もあり例年以上の落ち込みである。
	サービス業		温泉旅館は、春節を温泉地で過ごす中国人旅行者で入込増である。不動産取引は、消費税10%が先送りになった影響で低迷し、不人気地域では価格下落が加速している。建物設計は、官公需発注金額決定における技術者単価が改正され、今後の設計料の改善を期待している。
	建設業		建築工事は全体的な工事量は昨年並みだが、受注確保に企業間格差が見られる。電気工事は、受注状況は前月に引き続き良好だが、人手不足が続く。塗装工事は、工事が重なり職人確保に悪戦苦闘している。鉄構業は、中だるみ状態で稼働率の低下が続く。
	運輸業		全体的に荷動きは低調だが、繁忙時には運転手不足が見受けられる。また、軽油の値下がり状況が続く、若干の収益好転と資金繰りの改善が見られる。小口輸送は、お雛様の配送は昨年並みだが、自動車部品関連・食料品関連の動きが悪化し、全体的には売上高・取引件数が大幅に減少している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 119.8(前月比+5.3%)「県統計課・1月」
- 販売電力量 141,620万kWh(前年同月比▲2.2%)「東電群馬支店・1月」
- 住宅着工戸数 1,133戸(前年同月比+3.7%)「県建築住宅課・1月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.61倍:有効1.17倍「群馬労働局・1月」
  - 大型小売店販売額 227億円(前年同月比▲1.5%)「経済産業省・1月」
  - 消費者物価指数(全国) 103.1(前年同月比+2.4%)「総務省統計局・1月」
- (鉱工業生産指数は17年=100とした指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)